

広報 いいたて 11

平成29年11月号 No.645 www.vill.iitate.fukushima.jp



大いなる田舎
までいライフ
いいたて

楽しいダンス みんな見ててね！
草野・飯樋幼稚園の運動会

[特集]

大切な仲間 「日本で最も美しい村」連合

「日本で最も美しい村」連合

紅葉の季節を迎え、秋色の刺激を施したような景色を見せる村内に、NPO法人「日本で最も美しい村」連合に加盟する東北地方の町村・地区が集まりました。今年の東北ブロック会議総会は飯舘村が会場です。村は、平成22年の秋に、県内では初めて、同連合に加盟しました。この連合は、フランスの素朴な美しい村を厳選して紹介する「フランスの最も美しい村」運動を模範に、農村漁村が景観・文化を守りつつ「美しい村」として自立を目指すような運動を行う組織として、平成17年に発足しました。加盟するには、下記のような基準で審査を受け認定される必要があり、5年毎に再審査も行われます。

10月25日・26日の2日間、村内で、「日本で最も美しい村」連合の東北ブロック会議総会が開かれました。飯舘村に集まった東北地区の11の町村・地区が、それぞれの地域づくりの取り組みや理念を語り合いました。

加盟のための条件

- 1 人口が概ね1万人以下であること
- 2 地域資源が2つ以上あること
 - 1) 景観—生活の営みにより作られた景観(伝統的なまちなみや里山・里海)
 - 2) 文化—昔ながらの祭りや芸能、郷土文化など
- 3 連合が評価する地域資源を活かす活動があること
 - 1) 美しい景観に配慮したまちづくりを行っている
 - 2) 住民による工夫した地域活動を行っている
 - 3) 地域特有の工芸品や生活様式を頑なに守っている



連合のロゴマーク

東北ブロックの美しい村

● 現在の加盟町村・地区 ●



東北ブロック会議の総会で歓迎の言葉を述べる菅野村長。「加盟からわずか半年で震災に遭い、『美しい村』の皆さんからありとあらゆる応援をしていただきました。村民を代表してお礼を申し上げます」



野手上山の山裾を洗う清流も、流れ降りた里ではのどかな表情。深まりゆく里の秋です。

CONTENTS 目次

- 3 特集 大切な仲間「日本で最も美しい村」連合
- 6 復興を歩む 事業所の操業支援
- 8 報告のページ 平成29年飯舘村表彰式
- 9 教育のページ 小学校の稲刈り体験 ほか
- 10 農政のページ 村内で稲刈り始まる
- 11 報告のページ 道の駅に駅長誕生 ほか
- 14 いいたて便り
- 16 つながるアルバム
- 18 おしらせ
- 19 入札結果
- 20 ひとかたるものがたり / 堀先生相談室
- 21 こころのぼけっと / ひとのうごき
- 22 フォトストーリー 幼稚園運動会・小学校発表会
- 24 ホープス / 編集後記

園児はもちろん保護者や家族、来賓にも出場シーンのある、笑顔いっぱいの運動会でした。名場面の数々はP22の「フォトストーリー」をご覧ください。



● 表紙のおはなし ●



平成24年の「未来への翼イタリア研修」は「イタリアの最も美しい村協会」の協力をいただき実施しました



平成26年の全国フェスティバルで復興への決意を表明する県内の加盟4町村。左端が菅野村長

平成26年の福島宣言
震災以降、連合から、あるいは加盟町村・地域から、村は多くの支援・応援をいただけてきました。村は、全村避難中に、5年毎に行われる加盟資格の再審査を迎えましたが、現状を踏まえた上で加盟の継続を認められています。平成26年に北塩原村で行われた全国規模のフェスティバルでは、県内の加盟4町村が「福島宣言」を行い、支援に感謝を伝え、復興への決意を表明しました。



宿泊体験館「きこり」での交流会のようす。各町村・地域の首長に、地域づくりで大切にしていることや、特色ある取り組みなどをお話いただきました



3人の村民の方に事例発表を行っていただきました。また、記録映像の上映や視察を通して、震災以降のできごとや、復興のようすなどを見ていただきました

熱き思いを分かち合うー



村との関わりや協定に基づく活動などを発表した福島大学が、参加者に「かぼちゃまんじゅう」と甘酒をふるまってくださいました

総会の後は、事例発表や基調講演などが行われました。昨年10月に加盟したばかりの青森県佐井村は、漁業を基幹産業とする「美しい村」。「日本で最も小さくかわいい漁村」を目指し、行政と村民が協働して行っている取り組みについて発表しました。「佐井村にしかない資源を生かす」という視点から、「漁師の縁組み事業」や「養殖ワカメのオーナー制度」など、工夫を凝らした事業の数々を行って、将来に向けたビジョンやアクションプランの策定にも取り組んでいるそうです。立教大学特任教授の亀井善太郎先生による基調講演では、「対話」を大切にしようという提言をいただきました。互いの正論をぶつけ合い「協議」をするよりも、「対話」でいくつもの正解を語り合うことから、よりよい答えが導き出せるのでは。この講演を聞いた村職員の1人は、「震災前の飯館村の村づくりを思い出して、熱い思いがフツフツとわいて来るのを感じた」と話していました。交流会でも、「肩肘はらずに、あるものを生かしていきたい」「現状を認めて何をすればよいかを考えていく」「『未来』は『過去』にある。継承を大事にしたい」など、それぞれの町村・地区が大切にしている地域づくりの理念が語られていました。



「美しい村」飯館村ならではのあり方を見つけていきましょう



「いいたて村の道の駅までい館」での特産品販売（上の写真）、ふるさと納税の返礼品の提供など、村は多方面で「美しい村」の惜しみない協力に支えられています

会議の中で、「光は東北から」という言葉が語られていました。東北ブロックの取り組みを広く発信しようという心意気を表す言葉です。また、会議や交流の中で語られた「美しい村」のあり方には、三者三様それぞれ素晴らしさがありました。飯館村も、復興の先に目指す、私たちならではの「美しい村」のあり方を話し合い、見つけていきたいと思います。会議に参加した他町村の方々から「飯館村の皆さんが頑張っているように、元気をもらい、やる気が出ました」と、「共に歩もう」というエールも数多くいただきました。

震災の年、計画的避難区域の指定を受けた後も、特別養護老人ホーム「いたてホーム」は、入居者の移動に伴う危険を回避するため、村内に残って事業を継続しました。その他6つの事業所も、わずかな休業の後、認可を受けて操業を再開。それぞれの雇用を守りました。震災の翌年に避難区域の見直しが行われると、再開する事業所はさらに増え、49の事業所が、全村避難の村内で操業を続けました。菅野村長は、国や県に対して、「復興に頑張ろう」としている人をしっかり応援すべき」という思いを繰り返し伝えました。また、「いつまでも賠償が続く訳ではない。それに替わる支援策をできるだけ早く示してほしい」と、事業者・生活者の自立支援の重要性も説き続けました。

国は、平成27年8月に、「福島県相双復興官民合同チーム（現在は公益社団法人福島相双復興推進機構）」を立ち上げ、原発被災12市町村の事業者の個別訪問とヒアリングを開始しました。

県は、「福島県原子力被災事業者再開等支援補助金」を立ち上げました。この補助金は、被災12市町村の事業者が、事業再開や新規投資、販路開拓等の事業展開投資を行う場合に経費の一部を補助するもので、費用の4分の3（12市町村外の場合は3分の1）を支援します。限度額は1000万円ですが、12市町村内の再開で、市町村が策定する復興計画に沿うものは、国が定める要件を満たすと市町村が確認した申請を提出することで、3000万円以内となります。なお公募は、期間を区切って行われていて、現在は第4次募集が終了したところです。

村は、4分の3の補助金に、5%の補助を上乗せし、合わせて80%の支援ができるよう、仕組みを強化しています。

「社員の雇用と暮らしを守りたい」と操業継続の認可を受けた「ハヤシ製作所」は、放射線対策を厳重に行い、ただちに操業を再開。前出の補助事業を活用したのは、第二次募集の時、従業員用の駐車場の舗装などを行いました。「少しでも安心して通勤してもらえ、環境を整えたいと、事業を活用させてもらいました」と林武志社長。震災から3年後の平成26年に社長職を引き継いでいました。「その時でさえ不安に勝る希望がありました。支えてくれる従業員のおかげです」。現在は敷地内に新しい工場を建設中。「雇用の創出にも努めたい。村の支援・応援には本当に感謝をしています。地元企業として、復興の一翼を担えるよう、社員と共に努力を重ねていきます」。

昨年、創業40周年を迎えたハヤシ製作所は、村に寄付を行い、宿泊体験館「きこり」に木彫を寄贈しました。林社長は「震災の時、我々の訴えに応じて、事業が継続できるよう、一生懸命、国に働きかけていただいた。そのおかげで40周年を迎えられたのです」と振り返ります。そして、今年は、飯館中学校の生徒が「村内めぐり」で会社を訪れました。「中学生に『大変なことは何ですか』と聞かれた従業員が『こうやって仕事のできる場があるだけで、私は幸せ』と答えていました。頑張っ続けて来て良かったと報われた瞬間でした。苦労はあっても、それは自分たちだけではない。特段苦労を口にせず、感謝や喜びを表現してくれた従業員が誇らしく、本当にうれしかったです」。

株式会社ハヤシ製作所





▲ぬかるんだ田んぼの中で、真剣に作業を行いました

一粒一粒に、感謝

10月11日、草野・飯樋・白石小学校に通う全校児童が高野森夫さん(関沢)が福島市内に借りている田んぼで稲刈り体験を行いました。収穫の喜びを実感しました。稲刈りは、小学校が村の基幹産業である農業を体験し、ふるさとへの関心を深められるようにと企画。今年5月に田植えを行った約5アールの田んぼに実った稲を児童が鎌で刈り取りました。岡部真翔くん(飯樋小6年)は「短時間でこんなに稲を刈れるとは思わなかった」と充実した表情を見せていました。

▲村民ボランティアから刈り方を教わる児童



▲ワークショップでは、和太鼓演奏を体験しました

10月16日、草野・飯樋・白石小学校で、佐渡を拠点に活動している太鼓芸能集団「鼓童」による学校公演が行われ、目の前で練り上げられる圧巻の和太鼓演奏に、児童たちが引き込まれるように聴き入りました。

この公演は、海外救援金による日本赤十字社東日本大震災復興支援事業の学校支援事業として行われました。和太鼓の演奏を初めて生で見た庄司幸智くん(草野小6年)は「音の大きさ、響きにびっくりした。表現力について参考にしたい」と興奮気味に感想を話していました。



全身で、響き感じる 名人の技



▲これまでの貢献に対する表彰が行われました

9月29日、平成29年度飯舘村表彰式が、交流センター「ふれ愛館」で行われました。

今年度は、1人が特別功労表彰、3人が功労表彰を受賞しました。この表彰は村表彰条例に基づき、村勢伸展に貢献された方を、村が表彰するものです。

式では、歴代の村表彰受賞者ら多くの来賓が見守る中、村長が受賞者に対して感謝の言葉を述べ、それぞれに表彰状と記念品を授与しました。

多大な貢献に感謝 平成29年度飯舘村表彰式

今回表彰された4人の方の功績を紹介します。



小林 稔さん (前田・八和木)
村農業委員会委員 12年



北原 経さん (宮内)
村議会議員 8年
村農業委員会委員 13年
うち会長 4年



高橋 喜一さん (小宮)
村消防団員 35年



赤石澤 富夫さん (大久保・外内)
村消防団員 40年
村選挙管理委員会委員 5年



▲ 天気にも恵まれ、参加者の笑顔も晴れ晴れ！

笑って、歩いていこう！
 10月1日、「いいいてスポーツクラブ」が三春町さくら湖周辺で健康づくりと村民同士の交流を目的にウォーキング交流会を行いました。参加者は「大人の遠足みたいで楽しい」と声を弾ませながら、初秋のウォーキングでさわやかな汗を流しました。生涯学習課では、誰でも気軽に体を動かすことを楽しめる事業を計画しています。ぜひ皆さんも、ご参加ください。
 生涯学習課
 ☎0244(42)0072



▲ 大勢で作っている時間も楽しみのひとつです

作る楽しみ——
でき上った喜び
 10月19日、村が交流センター「ふれ愛館」で手芸教室を開催。世界でたったひとつだけの作品を、手作りで仕上げました。この日は、手芸教室や作品展を行っている「和工房咲き」（福島市飯野町）の阿部咲子さんを講師に、絹布を使った花やブローチを製作。参加者は「自分だけの作品ができて満足。家でも作ってみます」と作り上げた喜びを感じていました。



▲ 3月31日、福島民報に掲載した広告



▲ 10月20日、東京都で行われた贈賞式の様子

日本新聞協会 優秀賞
 3月31日に村が福島民報や全国紙など5紙に掲載した広告「ただいま、ふるさと」が、日本新聞協会の新聞広告賞広告主部門優秀賞に選ばれました。この賞は、同会が、優れた新聞広告に贈るもので、各紙の推薦を受けた約300点の中から受賞作品に選ばれました。村が掲載した広告は、村が全国からの多大な支援やあたたかな応援に対して、改めて感謝と復興に取り組む決意を伝えたものです。



秋の実り 黄金再び

▲ 10月17日に行われた稲刈りのようす。稲穂が、実りの秋を知らせるように、秋風に揺れていました



10月、震災後初めて販売を目的とした主食用米（ひとめぼれ・こがねもち）の稲刈りが村内で行われました。さわやかな秋空の下、農家の方が7年ぶりに黄金色の稲穂を刈り取り、米作りの喜びをかみしめました。5月に田植えが行われた水田には、8月の長雨や台風を乗り越えた稲穂が力強く光輝いていました。今年、村内で収穫された主食用米と牛の飼料となる稲（WCS）は全量が販売されます。来年の春、村内での田植えや作付を予定している方は復興対策課農政係までご連絡ください。
 復興対策課農政係
 ☎0244(42)1621



▲ 本格再開に向けて、牛舎に牛が帰ってきました

村内での牛の飼育 本格再開へ
 10月10日、佐藤隆男さん（飯樋町）が村内での黒毛和牛の繁殖飼育を再開し、5頭の仔牛が牛舎に運ばれました。佐藤さんは、村内での再開のために震災前に使っていた牛舎やパドックのコンクリート部分を打ち直すなど準備を進めてきました。「今後は、県・村による肉用牛の飼養実証事業に協力しながら、とりあえず、牛を100頭まで増やしたい」と笑顔で抱負を話しました。



▲大切な一票が投じられました

〈当日有権者数〉
5,114人
〈投票者数〉
2,628人
〈投票率〉
男 52.95%
女 49.80%
計 51.39%
〈小選挙区選挙・在外含む〉

第48回衆議院議員総選挙は、10月22日に投票が行われ、村の投票率は、期日前投票と当日投票を合わせ51.39%でした。前回平成26年衆議院選の投票率48.75%と比べ、2.64%上回る結果となりました。

衆議院議員総選挙 村内結果

村内開票結果

小選挙区 (届出順)

金子 恵美 1,079票
亀岡 偉民 1,515票

みんなで投票。みんなで参加。
あなたの一票大切に



比例代表 (届出順)

公明党	341票	日本維新の会	49票
日本のこころ	22票	社会民主党	63票
日本共産党	189票	幸福実現党	9票
自由民主党	929票	希望の党	426票
立憲民主党	426票	(有効投票数)	2,454票



観光・交流強化へ 中合と相互協力

▲復興に向けて、協定が結ばれました。左から4人目が黒崎社長、5人目が駅長の佐藤さん



道の駅 駅長
佐藤 求さん

「百貨店34年間勤務の経験、ノウハウを生かし、村になくてはならない道の駅に発展させたい。情報発信はもちろん、村民の方が毎日来なくなる道の駅を目指していきます」

10月12日、村と株式会社中合(福島市)が相互協力協定を結びました。協定に基づく最初の取り組みとして、中合営業・商品本部商品戦略部の佐藤求さんが「いいって村の道の駅までい館」の駅長に就任しました。中合が県内自治体と協定を結ぶのは初めてです。黒崎社長は「交流人口拡大など、中合として村に協力していく」とあいさつ。菅野村長は「百貨店のノウハウを生かし、より良い道の駅にしていきたい」と期待を寄せました。今後は、企画やPR活動を共同で行う予定です。

いいって中合手つなぐ

「戦没者等の遺族に対する特別弔慰金」のご案内

このたび、戦後70周年に当たり国より戦没者等の遺族に対する特別弔慰金(第十回特別弔慰金)が支給されることになりましたのでお知らせいたします。

支給対象者

平成27年4月1日(基準日)において、「恩給法による公務扶助料」や「戦傷病者戦没者遺族等援護法による遺族年金」等を受ける方(戦没者等の妻や父母等)がいない場合に、次の順番による先順位のご遺族おひとりに支給。

戦没者等の死亡当時のご遺族で

1. 平成27年4月1日までに戦傷病者戦没者遺族等援護法による弔慰金の受給権を取得した方
2. 戦没者等の子
3. 戦没者等の①父母②孫③祖父母④兄弟姉妹
※戦没者等の死亡当時、生計関係を有していること等の要件を満たしているかどうかにより、順番が入れ替わります
4. 上記1から3以外の戦没者等の三親等内の親族(甥、姪等)
※戦没者等の死亡時まで引き続き1年以上の生計関係を有していた方に限ります。

支給内容 額面25万円 5年償還の記名国債

請求期間 平成30年4月2日まで

※請求期間を過ぎると弔慰金を受け取ることが出来なくなります。

請求・お問い合わせ窓口 飯館村役場住民課住民係(本庁 ☎0244-42-1619)



▲感謝状を受けた北原さん(左)と新委員の高木さん

人権擁護委員は あなたの相談相手です

10月19日、9年間人権擁護委員として活動し、退任された北原康子さん(宮内)へ上川陽子法務大臣からの感謝状が伝達されました。また、10月1日付で、高木久子さん(大倉)が新しい人権擁護委員に委嘱されました。人権擁護委員は、人権相談を受け、問題解決のお手伝いや、人権について関心をもってもらえるような啓発活動を行っています。

新宿調理師専門学校から 温かな応援が届きました

生徒の皆さん
ありがとう
ございました



道の駅の清掃、漬物の販売
などもしていただきました

「参加できてうれしい」と清水星香さん（右）、
「笑顔を思い浮かべて作りました」と野口理紗さん

「新宿調理師専門学校（上神田梅雄校長／東京都新宿区）」は生徒と職員による被災地訪問を続けています。昨年は「いいいてホーム」の職員に、手作りの弁当を届けてくださいました。その後、道の駅の開業にも応援をいただき、さらには10月6日、今度は村の職員へ、激励の弁当を、約50人で届けてくださいました。「美しい村の悲運を知り、尽力する皆さんに、手から手へ、感謝と労いの弁当をお届けした」と上神田校長。職員一同、感激と共においしい弁当をいただきました。

秋晴れの下で元気ハツラツ パークゴルフ大会

9月26日、村老人クラブ連合会が主催する6回目のパークゴルフ大会が、「第3回福島民報社杯」を兼ねて開催されました。会場は、福島市の瀬上河川敷パークゴルフ場。好天にも恵まれ、61人が笑顔で大会を楽しみました。熱戦の結果、僅差の勝負を制して優勝したのは、男性の部が大河内敏彦さん、女性の部が中島友子さんでした。

仲間と楽しむ大会は、終始にぎやかで、表彰式の後には、青空の下で弁当を味わい、互いの近況を語り合いました。



「この雰囲気がいいよね」と、コースをめぐる間も笑顔が絶えません。好プレーも続きました

万葉のロマンにひたり 心地よい音楽にいやされて



聴衆参加型の楽しいコンサート。いきいきと躍動するステージ、美しい音楽が心を満たしました

10月9日、交流センター「ふれ愛館」で、「万葉と音楽でいいいてを感じる」というイベントが開かれました。主催は有志による「ふるさと飯館で“自分らしく”生きよう会」。万葉学者の上野誠氏、「飯館村を歩く」を著した影山美知子氏、菅野義人さん（比曾）、菅野村長による座談会「万葉集からみたふるさと飯館」をはじめ、健康ワークショップ、コンサートと内容も盛り沢山。お好み焼きや甘味、いいいて愚真会の手打ちそばなども振る舞われ、参加者はリラックスして1日を楽しんでいました。

お札に描かれたオオカミの 版木を村内で発見 公開へ

飯樋町で個人が所有する倉から、オオカミの座像を描いたお札の版木6枚が発見され、9月28日、綿津見神社で公開されました。版木と関連資料が眠っていた倉は、元は山中郷の陣屋の倉で、明治期から大正期に、神道系の講社が使用していたもの。調査に協力した石黒伸一朗さん（村田町歴史みらい館）が、公開に合わせて解説を行いました。宮城・福島両県を中心にオオカミ信仰を研究する石黒さんは、「民俗学的にも貴重な発見」と今後の進展にも期待を寄せました。



版木と一緒に発見されたお札、お守り、陶製のオオカミ像なども公開。写真は解説する石黒さん

大久保・外内復興組合 集会を開いて情報を共有



実証栽培を行う大学の先生や学生も交えて、いっそう有意義な協議と交流が行われました

10月15日、「大久保・外内復興組合」が、同地区の資源回収所で集会を開きました。集会では、農業基盤整備を進めるための話し合いが行われ、今年区内で行った実証栽培の測定結果も報告されました。また、福島大学・新潟大学から、野菜や小麦の実証を行う先生方を招き、バーベキューを味わいながら交流。福島大学からは学生も参加して、エゴマの栽培に関連する研究成果を発表しました。毎月の草刈りなどでも力を合わせる地区の皆さんの地道な取り組みが続きます。

これからの村づくりを探る 婦人会の視察研修

村の婦人会が、10月1日・2日に、視察研修を行いました。秋田県横手市では、雪国の気候に合わせた特徴的な建物を観光資源として生かす「増田町伝統的建造物群保存地区」を視察。「古い建物の維持は日々の手入れの積み重ね」「関わる人の誇りを感じる」など感心する声が相次ぎました。地元の方々の丁寧な対応も参考になったそうです。他にも同県酒田市・山形県鶴岡市などで研修を行い、親睦もいっそう深めた皆さん。学んだ成果を、今後の活動に生かしていきます。



山吉肥料店は現役の商店。「通り」と呼ばれる通路は塩を運搬できるよう幅広く寒暖差も緩和します



「村の補助を生かしてまたぜひ同窓会を」と菅野村長

避難解除に合わせて解散した旧松川雇用促進住宅自治会が、会津若松市の東山温泉で、初めての同窓会を開催。夕食の間には、久しぶりに顔を合わせた人たちが会話をはずませました。避難前は知らなかった同士が、帰村後行き来をしているなど、皆の近況も話題になりました。歌自慢のカラオケも盛り上がり、自治会で築いた絆を改めて感じる一夜となりました。



共に過ごした日々を懐かしみ皆で語りました

旧松川雇用
促進住宅
自治会



飯樋町
老人クラブ



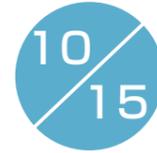
気心知れた仲間との、笑顔の絶えない楽しい時間



メンバーを募集中。地区外からの参加もOKとのこと



きつつきの会
(川俣自治会)



飯舘村
ソフトボール
チーム



バックを信じて粘り強い投球を続けたバッテリー



寄贈のBHNから作業のお手伝いいただきました



作業に慣れた名人ぞろい。紅白を交互に植えました

きつつきの会の有志の皆さんが、大火山自然公園の入り口に、認定NPO法人「BHNテレコム支援協議会」から寄贈を受けたハナモモの苗木、200本を移植しました。山ツツジが群生するこの場所は、議員OB会の皆さんが整備を続けていて、きつつきの会も協力しています。紅白のハナモモが咲きそろう姿を思い描きながら皆で作業を行い、作業後は豚汁を囲んで交流しました。

第4回市町村対抗県ソフトボール大会の1回戦が相馬光陽ソフトボール場で行われ、村チームは田村市チームと対戦しました。4点を先行された村チームは、4回に2点を返して追撃しましたが及ばず、2対9で破れました。惜しくも1回戦敗退とはなりましたが、随所に光るプレーが見られ、何と言っても、楽しくプレーする選手の姿が、抜群に輝いていました。



常に声を掛け合うベンチ。仲の良さがうかがえます

入札結果をお知らせします

入札日 / 6月22日 (単位: 円)

工事(業務)の番号・名称	契約額(税込)	請負業者	完成予定
東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故被災の記録(第3版)	22,680,000円	(株)SAGA DESIGN SEEDS	平成29年11月下旬
オリジナルデザイン年賀はがき広告	3,531,600円	(株)日進堂印刷所	平成29年10月中旬

入札日 / 7月3日 (単位: 円)

工事(業務)の番号・名称	契約額(税込)	請負業者	完成予定
消防第一分団機動部屯所屋外給排水等整備工事	4,730,400円	(株)古俣工務店	平成29年10月下旬
センター地区用地境界測量業務	8,964,000円	(有)大内測量設計事務所	平成30年3月下旬
財務会計システム新地方公会計制度改修業務	2,268,000円	(株)福島県中央計算センター	平成29年9月下旬
深谷拠点A-3エリア造成工事監理業務	4,060,800円	(一財)ふくしま市町村支援機構	平成30年3月下旬
飯館村葬儀所備品	2,052,000円	ふくしま未来農業協同組合	平成29年11月上旬
飯館村葬儀所消耗品	28,728,000円	ふくしま未来農業協同組合	平成29年11月上旬
伊達市見城坂仮設施設解体工事	10,800,000円	齋藤運輸工業(株)	平成29年8月上旬
比曾簡易郵便局仮設店舗解体工事	702,000円	(有)福相建設	平成29年8月上旬
被災地域農業復興総合支援事業基幹事業 農業用施設等整備附帯工事(深谷復興拠点地内第1号)	5,594,400円	大内わら工品(株)	平成29年7月下旬
被災地域農業復興総合支援事業基幹事業 農業用施設等整備工事(深谷復興拠点地内第2号)	279,720,000円	大内わら工品(株)	平成29年12月下旬
被災地域農業復興総合支援事業基幹事業 農業用施設等整備工事(11区肉用牛用施設)	36,612,000円	大内わら工品(株)	平成29年11月下旬
被災地域農業復興総合支援事業基幹事業 農業用施設等整備工事(14区花卉栽培用施設)	91,152,000円	大内わら工品(株)	平成29年12月下旬
農業集落排水施設災害復旧事業査定設計業務委託 (草野第2地区・飯樋地区)	2,268,000円	福島県土地改良事業団体連合会	平成29年11月下旬
農業集落排水施設災害復旧事業排水管布設替え 査定設計業務委託(草野第2地区・飯樋地区)	2,754,000円	(株)東亜コンサルタント	平成29年11月下旬
第12号 井戸掘削(ボーリング)工事(飲料水安全 確保支援事業)(飯樋字八和木地内)	3,672,000円	庄建技術(株)	平成29年10月中旬
第13号 井戸掘削(ボーリング)工事(飲料水安全 確保支援事業)(比曾字下比曾地内)	3,672,000円	庄建技術(株)	平成29年10月中旬

平成29年秋季全国火災予防運動実施

平成29年度全国統一防火標語 「火の用心 ことばを形に 習慣に」

11月9日から15日までの7日間、秋季全国火災予防運動が実施されます。空気が乾燥し火災が発生しやすい季節を迎えるにあたり、住民一人ひとりが火災予防に対する意識を高めることを目的としています。大切な命や財産を火災から守り、「火災に強い街づくり」のために、本年度は「火の用心 ことばを形に 習慣に」を防火標語に、火災への注意を呼びかけています。皆さまにおかれましては、「住宅防火 いのちを守る 7つのポイント」とし、次のことを再度確認、防火対策をお願いします。

◎3つの習慣

- 寝たばこは、絶対やめる。
- 暖房器具等は、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ガスコンロなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

◎4つの対策

- 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。
- 火災を小さいうちに消すために、住宅用火災警報器を設置する。
- お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。

消防飯館分署 ☎0244(42)0119

10月の村の動きと主なできごと

- 2日・第10回議会臨時会(村役場本庁議場)
- 5日・仮設住宅・公的宿舎管理人会議(飯野支所)
- 6日・第1回農業委員会の新制度移行準備委員会(村役場本庁)
- 11日・第5回学校運営協議会(飯館中学校)
- 12日・株式会社中合と協力協定締結(地域活性化センター「いちばん館」)
- 15日・第4回市町村対抗福島県ソフトボール大会 1回戦(相馬市相馬光陽ソフトボール場)
- 18日・「飯館村認定子ども園」教職員採用並びに運営等検討委員会(いたてホーム)
- 19日・人権擁護委員 感謝状及び委嘱状交付(村役場本庁)
- 20日・新聞広告賞 優秀賞受賞(東京都・帝国ホテル)
- 22日・第48回衆議院議員総選挙 投票開票
(投票/村役場本庁及び飯野支所・開票/交流センター「ふれ愛館」)
- 23日・第10回農業委員会定例総会(村役場本庁議場)
- 24日・関根松塚太陽光発電所竣工式(松塚地区現地・交流センター「ふれ愛館」)
- 25・26日・「日本で最も美しい村」連合 東北ブロック会議総会
(交流センター「ふれ愛館」・宿泊体験館「きこり」)
- 28・29日・いたて村文化祭(交流センター「ふれ愛館」)
- 30日・第3回行政区長会議(交流センター「ふれ愛館」)

北原 康子さん (宮内)



村で27年間公文式の教室を開いていました。相馬大野台第6仮設住宅の管理人は7年目。3期務めた人権擁護委員はこのほど退任しました。

原町から宮内に嫁いで来て、声がかかると村おこしのグループの会合に参加したりもしていました。村のことを知りたかったし、新しいことを教えてもらうのは楽しいですからね。本当は内気で話下手な私ですが、そういう機会を経験するうちに、「角度を変えれば、いろいろ考え方ができるんだ。自分の考えだけにこだわったり、殻に閉じこもったりしないで、苦手な分野でも関わってみよう」と思えるようになりました。大人なんだから、いろいろな所に出て、気軽に話ができるようになってい

も思っていました。とはいえ、抜けている所がいっぱい。しっかりしたいんですけどね！

震災の後、夫は職場に寝泊まり、夫の両親は牛の世話。と、家族がバラバラになりました。完成を待つて入居した仮設住宅では、手続きの時に管理人を頼まれ、「集会所のお掃除くらいならできるかな」と軽い気持ちで引き受けました。今思えば、何も分からなかったからこそ、迷いなくやってこれたのかなとも思います。

支援や視察に来てくださる方は、できるだけ受け入れて来

ました。この仮設住宅の中だけには、誰もが引きこもりがちになると思いました。運動、手芸、出前講座、支援、交流。ほぼ毎日何かがあつて、お誘いの声をかけ続けました。

一つ思うことは、例えば熊本でも地震があったように、こういう避難生活は、誰にでも起こり得るんですよ。原発事故と自然災害の違いはありますが、避難生活の中で起こること、仮設住宅での暮らし方など、どうしようもない部分も隠さずに、多くの方に知っていただくことが大切ではないかと思うんです。支援に来てくださる方も、やはり現状を知りたいですよ。次の防災につなげていただけたらと思います。自分たちも、話すことで整理ができていきます。

宮内の家は建て替えました。田畑や山もありますし、少しずつ片付けを進めています。避難の間に長女が兵庫に嫁ぎ、孫も生まれました。主人は那須塩原で花づくりを始め、結婚後初めて離れ離れの生活でした。管理人の仕事を終えたら、主人の所に行つて、落ち着いてこれからのことを考えてみるつもりです。

心も自分も大切に。

おしえてくんちえ! 堀先生

村民の皆さんからの相談に、堀先生がお答えします

相談 何かを「決める」ことが、難しく感じています。

堀先生 放射線災害は、たくさんものごとをあいまいにします。例えば「戻れる」のか「戻れない」のかが、はっきりしなくなる場合もあるのです。そして、そのように「決められない」こと自体が、先に進むことを邪魔する、とても苦しい状況です。「決められない」のに「決める／選ぶ」ことを求められるのは大変です。そんな時には、あなたを含めた誰かが悪いのではなく、そのようなあいまいな状況が悪いのだと考えてください。



精神科医 堀 有伸 先生
ほりメンタルクリニック院長

「心の健康相談」お問い合わせは 健康福祉課健康係 (いちばん館内) ☎0244-42-1638まで

こころのぽけっと

「イエス」と「ノー」

誰もが全く思ってもみなかった避難生活。影も形も色も匂いもない放射能への対応を強いられた6〜7年でした。私は、起きてしまったことに愚痴を言っても、何も生まれてこないの、前向きな対応をと心がけてきたところです。

実は、物事をうまくいかせようと思つたら「イエス」からはじめること。という話を聞いたことがあります。「ノー」と言つてしまえば、出来るかもしれない可能性を最初から無くしてしまうこともあるということでしょう。「イエス」や「ノー」をはっきり言うことにしようという話も聞いたことがあります。ただし、「ノー」と言つたらそれで終わらないように。と。「イエス」は答えですが、「ノー」は答えではない。「ノー」の答えで終わっていたのでは尻切れトンボになってしまう。相手の出来るようなことを「提案」していくことが、「ノー」の答えには必ず付かねばならないということでした。

つまり、「イエス」は「よし、やりましょう」なのだが、「ノー」の方は「ノー、その代わりにこういう風に考えられませんか」というように。「ノー」は「その代わり」と続けて初めて答えとなるということ。です。

この6年間、私は「ノー」も言ってきましたが、村の復興や、村民のことを考えれば「ノー」の次に必ず可能性を提案してきたつもりです。「イグネ」の切り倒しもありましたし、約600戸の昇口舗装も、今進められています。「ああ、この家も舗装に」「帰つて来られるのだな」と思いながら村内を回つているところ。これからは「イエス」と「ノー」をうまく使い分けて復興にあたつていくつもりです。

平成29年10月12日 飯館村長 菅野 典雄



誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の氏名	行政区
青柳 知 芹ちゃん	将雄・友美	二枚橋・須萱
中井田 あかり 燈ちゃん	晃・かおり	大倉
石川 かける 翔くん	聡・美保	比曾
相澤 ひな 奈ちゃん	正孝・茜	白石

すくすくと元気に育つてね



おくやみ

氏名	年齢	行政区
赤石沢 喜 造	59	草野
木 幡 康 裕	76	比曾
庄 司 シゲ子	94	関沢
木 幡 晴 子	84	伊丹沢
赤石澤 重 光	82	二枚橋・須萱
庄 司 金 男	91	伊丹沢

ご冥福をお祈り申し上げます



(9月21日から10月20日までに届け出のあったものを掲載) ※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

ひとのうごき

ひとのうごき (平成29年9月30日現在)		9月1日~30日までの人口動態	
人口	今月 (前月比)	◆◆人口動態◆◆	
男	2965人 (-7)	転入	0人
女	2981人 (-9)	転出	12人
計	5946人 (-16)	出生	3人
世帯数	1807戸 (-4)	死亡	6人
			(住民基本台帳人口)



フォトストーリー

笑顔実る秋

いいたてっこ運動会
草野・飯樋幼稚園

いいたてっ子発表会
草野・飯樋・白石小学校

9月30日は、幼稚園の運動会(上段)。家族や来賓が見守る中、園児たちは、笑顔いっぱい、元気パワー全開で、運動会を楽しみました。
小学校の発表会は、10月21日(下段)。各学年の工夫を凝らしたプログラムは圧巻でした。それぞれの発表にこめられたテーマを、心をこめて表現する児童の皆さんの姿が、本当に感動的でした。



出会ったこと 笑ったこと
そのすべてにありがとう



HOPES

ホープス セカンド

2nd

震災の日、看護専門学校の1年生だったあゆみさんは、南相馬市立病院で実習中でした。激しい揺れの中、病室のロッカーを抑えて患者を守り、津波の危機が迫る中、病院内の移動を補助。しかしその後、学生たちは、帰宅を命じられます。「まだ資格がない立場。役に立てないことが悔しかった」。

高校時代の骨折をきっかけに看護の仕事に興味を持ち、地域医療に貢献したいと看護

大好きな家族が私のふるさと

鳥羽 あゆみさん (佐須/旧姓 菅野)



震災時は相馬看護専門学校の1年生。避難するまで佐須の自宅から通学していました。平成25年に地元の病院に就職。被災地の医療を支えました。



看護学校時代のあゆみさん（前列右から2番目）。震災時も支え合った仲間と共に看護帽を頭上に戴く「戴帽式」に臨んだ日のひとこま。

学校に進学。「自立できる資格を」という両親の勧めも背中を押しました。「家族が大好きな私は、経験を積んで、いずれ村のクリニックで働くのでもいいなあと思っていました」。あゆみさんは、3姉妹の真ん中。「二つの食べ物も皆で分かち合うような仲の良い家族です」。

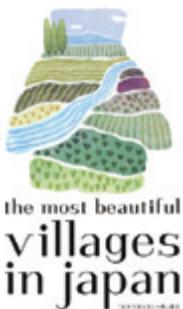
全村避難となり、一次避難を経て家族は福島市内の仮設住宅へ。あゆみさんは相馬市内のアパートに移りました。同時に相馬市内の施設に入居した祖母を見守るのもあゆみさんの大事な役目になりました。そして平成25年、看護師となり、公立相馬総合病院に就職。地域医療に携わりたいという志を実現しました。

働き始めて3年目。あゆみさんは職場の同僚と意気投合し、交際期間を経て今年9月に結婚。ご主人の転勤に合わせて会津若松市へ転居し、11月から現地の看護師として、新たな歩を踏み出します。

〈編集後記〉

● 朝晩、気温がグッと下がり、暗くなる時間も早くなってきました。この季節は体調を崩しやすいちよつと厄介な季節ではありますが、山が燃えるような紅葉のシーズンでもありません。大勢の観光客が来るような観光地も良いですが、個人的には、自分だけの秘密の場所を知っている大人に憧れます。なので、村民の方が内緒にしている絶景スポットを教えてくださいました。最後は、取材をして思った、これだけは大声で言わせていただきたい。村には、黄金の稲穂が本当によく似合うー！(木幡)

● 「いたてつ子発表会」は、劇、群読、和太鼓、合奏、身体表現、体操など、どれも非常に見応えがあり、発表にこめたテーマを伝えよう、伝えたいという児童の皆さんの思いが、キラキラとあふれていました。「この仮設校舎から未来に向かって進んでいきます」と最後に語った6年生。やり遂げた一人ひとりの誇らしい表情が印象的でした。感動をありがとう。(星)



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。